

温湯消毒機を利用したイチゴうどんこ病防除技術の実証

要約

温湯消毒機を利用したイチゴうどんこ病防除について実証を行ったが、ほ場全体でうどんこ病の発生が見られず、効果は判然としなかった。また、慣行の50℃・3分間浸漬では熱害が多く見られたため、処理温度は47℃、浸漬時間は5分間が望ましいと考えられた。

○ 展示のねらい

イチゴうどんこ病は絶対寄生菌であるため、育苗期間中に無病の状態にできれば本ほでの発生を抑えることが可能である。そこで、採苗時の温湯処理(50℃・3分間処理)による防除効果を検討し、普及の資とする。

○ 主な成果

表1 うどんこ病発生株率

	6月24日 (仮植前)	9月5日 (定植時)	9月25日	10月23日	11月14日	12月5日
供試区	48.3	0	0	0	0	0
対照区	0	0	0	0	0	0

※ 調査株数は、仮植前 60 株、定植後 100 株

表2 浸漬温度と時間が活着率に及ぼす影響

浸漬温度・時間	処理・仮植日	活着率(%)
50℃・3分	7月14日	56.9
47℃・5分	7月16日	94.4
無処理	7月17日	93.1

※ 8月22日調査。調査株数は1区72株。



図 50℃・3分間処理で発生した熱害

挿し苗前の子苗に対し、慣行の50℃・3分間で温湯処理を実施したところ、挿し苗2日後に新葉に熱害が発生し、活着が著しく劣った(図)。処理後は、供試区、対照区ともうどんこ病の発生が見られず、防除効果の差は見られなかった(表1)。また、慣行処理で熱害が多く見られたため、47℃・5分間処理を検討したところ、熱害の発生は見られず、活着率にも影響は見られなかった(表2)。47℃・5分間処理でも試験レベルでの防除効果は認められているため、47℃・5分間処理が適当と考えられた。

○ 今後の方向性

47℃・5分間処理での使用を推奨する。

実施機関： 下都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所： 小山市
問合せ先： 栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315